

1	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17107002	植物の細胞死を制御する液胞プロセッシング系の解明	西村 いくこ (京都大学・大学院理学研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、植物の細胞死を分子レベルで解明することを目指している。植物の分子遺伝学的研究は、実験データを取るのに時間がかかるので、前半の進展が遅いように感じられるが、国際専門誌に既に 12 報の論文 (査読有り) を発表しており、着実に成果が得られている。</p> <p>また、焦点を 3 つ置いており、それらは VPE を鍵酵素とする細胞死カスケード系の分子機構というところに収斂すると考えられるので、後半では焦点をその点に絞ると、研究が加速され、予想を上回る成果が期待される。</p>				
2	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17107003	ダイニン組換え体発現と、その構造・動態に基づくエネルギー変換機構の解明—生物分子モーター研究の新たなフロンティアの展開—	須藤 和夫 (東京大学・大学院総合文化研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>ダイニンは、他のミオシンやキネシンなどのモータータンパク質と較べて研究が遅れている。この基盤研究 (S) では、須藤氏は、自ら開発した粘菌ダイニンの組換え体発現系を駆使して、生化学的解析、1 分子観察による解析、および電子顕微鏡と結晶解析に取り組んできた。研究進捗の現状は、生化学的解析においては期待通り多くの世界最先端の成果が生み出されつつあり、いくつもの論文が執筆中である。この成果によって、基盤研究 (S) の基本要件は満たしている。</p> <p>1 分子解析においては、システインを置き換えた変異体の作製など準備が進んでいる段階である。今後の発展を期待したい。電子顕微鏡による観察は進んでいるが、さらに試行錯誤が必要な段階である。</p> <p>結晶解析は、もともとハイリスク・ハイリターン企画であり、努力と執念をもって、幸運を探り当ててを期待する。</p>				